國學院大學学術情報リポジトリ

中国青海省の農村部における漢民族の葬礼と宗教的職能者

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-04-19 キーワード (Ja): 葬礼, 宗教的職能者, 道教の陰陽先生, 儒教の礼儀先生, チベット仏教のアカ キーワード (En): 作成者: 李, 生智 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000306

中国青海省の農村部における漢民族の葬礼と宗教的職能者

李　　生　智

論　文　要　旨

中国大陸の西北部に位置する青海省のうち、省都の西寧市などの都市部では火葬を行っているが、農村部の漢民族の間では現在も土葬を続けており、従来の葬礼作法を確認することができる。そうした農村部の葬礼は、人々は生前から死後の準備を進め、死後は自宅で儀式を執り行い、遺体は宗族共同墓地である「祖墳」に土葬する。こうした葬礼には、①家族、②宗族、③親戚、④村人、⑤職能者(技能・宗教的職能者)、の五者がいる。この五者が連動的に儀礼を行い、死者を遺体処理と霊魂処理を行う。特に、葬礼には道教の陰陽先生、儒教の礼儀先生、チベット仏教のアカなどの宗教的職能者を招請する。

本稿は、三者の職能者の宗教的職能者に注目し、次の点を明らかにした。

（1）　葬礼における三種類の宗教的職能者の役割分担が確認できた。

（2）　死者の条件による宗教的職能者の使用基準を分析した。

（3）　1950年代以降の宗教的職能者の使用状況の歴史的な変遷をみてきた。

キーワード：葬礼、宗教的職能者、道教の陰陽先生、儒教の礼儀先生、チベット仏教のアカ

一　本研究の課題

本稿で取り上げる青海省は中国の北西部に位置する高原地帯であり、省都である西寧市を含む省東部には広大な農耕地区が広がる。中国政府による「殯葬改革」[1]の火葬が積極的に推進されている現在も、省都周辺の農村部の漢民族は自宅葬と土葬を継続している。

こうした青海省の漢民族の葬礼については、「中国青海省湟中県における漢民族の葬礼関与者と「寿衣」・「孝」」(2019)、「中国青海省の漢民族の葬礼と担い手－湟中県李家山鎮新添堡村の事例から－」(2021) などの拙稿において具体的な調査事例とともに詳報して

きた。

本稿の課題は、当地域の葬礼に登場する「陰陽先生」、「礼儀先生」、「アカ」という三系統の宗教的職能者に注目し、(1) 各宗教的職能者の葬礼への関与の実態、(2) 各宗教的職能者が葬礼において果たす役割、の 2 点を詳らかとすることである。なお、当地域の葬礼に関する情報は、2016年から2022年における西寧市周辺の農村部でのフィールドワークで得られた34事例に基づく。

二　葬礼と宗教的職能者

1．三種類の死者

筆者は、これまでに当地域では年齢や性別、婚姻や後継者の有無、死因といった死者の複数の条件によって、葬礼のあり方や葬法が明確に区分されることを明らかにした[(2)]。すべての死者に対して丁重な葬礼を行うわけではなく、死者の条件によって遺体の処置方法、葬礼の作法・規模・参加者、および死後の祭祀などが厳格に規定されている。そして、条件によって①祖先、②祖先になれない先人[(3)]、③鬼になる死者という三種類の死者に大別されることを指摘した。

死者は祖先になるにあたり、①党家の成員である、②党家の成員の後継者を有す、③自然死する、といった三つの条件が求められる。これら全ての条件を満たした死者は、寿衣を着て、装飾された棺材[(4)]に納められたうえで一族の祖墳に深く埋葬、建碑され、族譜に記名された後、永年にわたり一族の人々から祭祀を受け続ける。こうした葬礼は青海省の漢民族にとっては最も理想的な人生の終焉である。

一方でこれらの条件を満たさない死者は、②祖先になれない先人、もしくは③鬼になる死者として葬礼が執り行われる。②祖先になれない先人は、族譜への記名はされるものの祖墳への埋葬は認められず、条件に応じて、祖墳の周辺（外闕）か遠隔地へ埋葬される。③鬼になる死者は、祖墳とその周辺への埋葬は認められず遠隔地へ埋葬、火葬後に川へ散骨される。

表1　三種類の死者と族譜・祖墳

三種類の死者		族譜への記名	祖墳への埋葬
祖先になる死者		○	○　祖墳
祖先になれない宗族成員の死者	自然死	○	△祖墳周辺
	不自然死	○	× 遠隔地
鬼になる死者		×	× 遠隔地

本章では、①祖先になる理想的な葬礼における宗教的職能者の関与の実態を整理したうえで、死者の条件による宗教的職能者の関与のあり方に関する差異を比較分析する。

2. 祖先になる死者の葬礼における宗教的職能者

まずは祖先になる死者の葬礼について、宗教的職能者の関与のあり方を確認する。なお、表2にみるように祖先になる死者については15の事例を収集している。

祖先になる死者に対する葬礼には、家族、党家、親戚、莊員、職能者（技能的･宗教的）の五者が関与する。これら五者の関与のあり方についてはすでに別稿にて詳報しているため[(5)]、ここでは陰陽先生・礼儀先生・アカと呼ばれる宗教的職能者に注目して、その実態を報告する。

先祖になる死者は祖墳に埋葬され、族譜へと記入されることになるが、祖墳と族譜は党家ごとに用意されており、その準備にあたっても宗教的職能者が関与する。ここではＡ党家一族の祖墳と族譜、Ｂ死者の葬礼の二つに分けて流れを確認する。

表2　葬礼における宗教的職能者の使用状況

類型	番号	死者	死亡年月日(享年)	性別	死因	後継者の有無	埋葬場所	陰陽先生	礼儀先生	アカ
祖先	事例1	李義H	1993年1月5日(82歳)	男性	老衰	有	祖墳	5人	2人	×
	事例2	李永G	2003年6月16日(76歳)	男性	老衰	有	祖墳	5人	2人	3人
	事例3	李氏山永G	2003年4月23日(57歳)	女性	病気	甥→息子の役	祖墳	1人	1人	×
	事例4	羅氏夏桂L	2008年11月28日(74歳)	女性	老衰	有	祖墳	5人	2人	3人
	事例5	李爾T	2008年3月21日(83歳)	男性	老衰	婿→養子	祖墳	3人	2人	×
	事例6	芦氏何海Y	2015年5月13日(78歳)	女性	老衰	有	祖墳	3人	2人	×
	事例7	董氏魏彦Y	2016年7月4日(76歳)	女性	老衰	有	祖墳	3人	×	2人
	事例8	李興Y	2016年7月4日(45歳)	男性	病気	有	祖墳	1名	1名	×
	事例9	李永C	2016年11月22日(75歳)	男性	病気	甥→養子	祖墳	3人	2人	×
	事例10	李氏張守Y	2018年9月9日(65歳)	女性	病気	有	祖墳	5人	1人	1人
	事例11	李爾J	2019年11月10日(77歳)	男性	老衰	有	祖墳	3人	2人	×
	事例12	李永N	2021年1月5日(91歳)	男性	老衰	有	祖墳	5人	2人	3人
	事例13	李氏景鳳L	2021年7月9日(75歳)	女性	老衰	有	祖墳	3人	2人	×
	事例14	趙宗F	2021年8月17日(70歳)	男性	老衰	甥→息子の役	祖墳	3人	2人	×
	事例15	李氏景銀G	2021年9月19日(83歳)	女性	老衰	有	祖墳	5人	2人	2人
未成年	事例16	尕圆子	1963年1月(0歳)	男性	病気	無	遺棄	×	×	×
	事例17	李広F	1981年2月12日(9歳)	男性	病気	無	山奥	×	×	×
	事例18	張志H	2007年8月27日(17歳)	男性	溺死	無	祖墳周辺	1人	×	×
	事例19	山文J	2015年5月16日(13歳)	女性	病気	無	山奥	1人	×	×
	事例20	李景S	2016年8月21日(9歳)	男性	溺死	無	火葬	1人	×	2人
	事例21	李輝L	2018年7月3日(6歳)	男性	交通事故	無	火葬	×	×	2人
	事例22	景占Y	2018年7月3日(6歳)	男性	交通事故	無	火葬	×	×	2人
	事例23	張志L	2018年7月3日(8歳)	男性	交通事故	無	火葬	×	×	2人
	事例24	李嘉X	2019年12月24日(4歳)	女性	病気	無	火葬	1人	×	×
未婚	事例25	李成M	2013年9月11日(22歳)	女性	病気	無	火葬	1人	×	×
	事例26	楊得L	2015年10月23日(25歳)	男性	病気	無	祖墳周辺	1人	×	×
不自然死	事例27	王？？	1953年(22歳)	女性	自殺(首吊)	無	祖墳と別所	×	×	×
	事例28	李玉L	2014年6月7日(26歳)	男性	事故	無	祖墳と別所	1人	×	×
	事例29	張玉F	2018年12月29日(35歳)	男性	自殺	有	祖墳と別所	1人	×	×
	事例30	祖母	2022年1月31日(76歳)	女性	他殺	有	祖墳と別所	7人	3人	5人
	事例31	祖父	2022年1月31日(73歳)	男性	他殺	有	祖墳と別所	7人	3人	5人
	事例32	父	2022年1月31日(47歳)	男性	他殺	有	火葬	7人	3人	5人
	事例33	母	2022年1月31日(43歳)	女性	他殺	有	火葬	7人	3人	5人
	事例34	娘	2022年1月31日(21歳)	女性	他殺	無	火葬	7人	3人	5人

A　党家の祖墳と族譜

青海省の漢民族は、一族の祖先になる死者を祖墳へ埋葬し、族譜へ記名する。祖墳の建築と族譜の編纂は、一族の成員からの集金し、祖墳の風水の勘定と族譜の執筆は専門的な職人を招請して行なわれる。

墳は死者の遺体を葬ったところであり、土で饅頭状の形に盛りつける。墳は死者の住宅であり、その風水の好悪が死者の往生と家族の安定と繁盛に強い影響されると考えられている。祖墳は一族の歴代の祖先を埋葬する墳地であり、その環境の良し悪しは一族の盛衰と安寧に関わるとされており、祖墳を作る際には風水が最も重視される。

族譜は、一族の始祖から歴代の祖先の歴史や事績、重要な事件、あるいは家訓などが記載される書物である。一族の成員として認められた死者の生年月日、死亡年月日、業績、子孫の情報、祖墳の所在などの様々な事柄が詳細に記載される。

祖墳と族譜は青海省の漢民族にとっては重要な意味を持つ。しかし、大躍進と文化大革命の間に破壊・焼却し、1980年代以降から祖墳の再建築・族譜の再編纂を行なった歴史がある。この歴史について、話者の李爾偉[(6)]は、「我が村は祖墳を含む全ての墳地を、大躍進のとき全て平らにして農耕地にした。その時の死者はどうしても農耕地になれない乏しい山坡（山の斜面）に埋葬した。族譜は文革の「反四旧運動」で焼却したことが多い。現在使用している祖墳と族譜は近年になって新たに建造、編纂したものである」と述べた。

A－1　祖墳の勘定［風水先生］

祖墳の立地は、風水先生が風水の良い場所を勘定する。その際に、陰陽五行・周易八卦などの理論を基づいて墳地の規模（定員数）、方角（境と向き）、後土神[(7)]の方位（墳地中軸）を決める。つまり、風水先生は立地だけ勘定するのではなく、墳地に埋葬できる人数とその向きの方向や男女区域の軸などの詳細も決めるのである。また風水先生は、死者の墳地のみならず、生者の住宅を建てる際にその立地の風水の勘定も担う。風水先生の一部やそのほかの儀礼の担い手として、地鎮祭・上棟式、および葬礼などの儀式に関与してくる職能者は「陰陽先生」と呼ばれる[(8)]。

A－2　族譜の編纂［知識人］

族譜の執筆は、当地の歴史に詳しく人望のある知識人に依頼する。族譜は一族の始祖から歴代の祖先の歴史や事績、重要な事件、あるいは家訓などが記載され、一族の成員と認めた死者に限り、その生年月日、死亡年月日、事業、子孫情報、墳地の所在地、などさまざまな事柄が詳細に記載された書物である。族譜は一族の成員ではなく、地元の著名な知

識人によって記録される。知識人は当地の歴史などを熟知している教師・書画家などの一定の知識・教養を持つ人物であり、宗族の成員から提供された情報をもとに族譜の執筆と編纂をする。こうした知識人の中でも、より儒教の教典に対して理解が深い人物が「礼儀先生」と呼ばれる。

このように祖墳の勘定と族譜の編纂という二つは、求める技能によって風水の知識を有す職能者と、文化的教養を有す職能者に役割が分担される。さらにその風水や教養といった知識・技能の範囲によって、陰陽先生や礼儀先生など呼び分けられる。

B　死者の葬礼

葬礼は祝寿、臨終の対応、死後の祭奠、遺体の埋葬、祭祀供養という五段階によって行なわれるため、その流れに沿って宗教的職能者が関与について記述する。

B－1　祝寿

祝寿とは、生前から息子と娘が親のために葬礼で用いる葬具を贈る儀礼である。息子は棺材と呼ばれる棺を、娘は寿衣と呼ばれる死装束をそれぞれ用意する。この儀礼には宗教的職能者は関与しない。

B－2　臨終の対応－陰陽先生による死亡時間の占卜

病人が人生の最期を迎える際にその家族は、家族と喪主[9]が病人の身体を清め、生きている内に寿衣などを着せ、最期を見届ける。通常はこの段階では宗教的職能者は関与しない。しかし、危篤にあたって苦痛を感じているように見られる場合には、家族は陰陽先生に病人の死亡時間を占卜してもらう。いわゆる、陰陽先生は危篤の死者の死亡時間を占卜で予知できる。さらに、天命を迎える病人を死の苦痛から脱出させるため、道路に冥紙などを焼却の際の煙で病人の魂を迎えにくる神に具体的な場所を指示する。

事例13では危篤時に呼吸をすると痰が絡んだようなコロコロと音が鳴る「死前喘鳴」が起きた。その様子を見た家族は、死者が苦しんでいると捉えて、陰陽先生に電話で占卜を依頼した。病人の状態と生年月日などを聞いた陰陽先生は、死亡時間を占卜し、病人の家族に村落の廟・山神廟の参拝、村口の道路で冥紙を焼却するといった指示を出した。

B－3　死後の祭奠－宗教的職能者による喪家設営と諸儀礼

死後、家族と喪主と党家の男性らは、喪家にて葬礼の規模や祖墳への埋葬の是非について話し合う。死者の条件と喪家の経済力により、招請する宗教者の種類・人数と遺体を納

める棺材の規格といった葬礼の規模が決まる。以後、葬礼に関する業務は、喪主と党家で構成した葬礼を運営する組織の「東家」に任せられる。

屋敷の中央にあたる祖先祭祀をする「中堂」という家屋へ遺体を安置する。葬礼では中堂を「霊堂」と呼ぶ。宗教的職能者の多くの儀礼はこの場所で行う。

この段階で、喪家の希望に沿って喪主が宗教的職能者を招請する。宗教的職能者には道教の陰陽先生（写真３）、儒教の礼儀先生（写真４）、チベット仏教の僧侶（写真５）がおり、死者の条件や喪家の経済力によって、招請する宗教的職能者の種類と人数が異なる。祖先の条件を満たしていても親世代が存命する場合には、葬礼を盛大に行うことができず、宗教的職能者の人数や料理の品数を減らすなど葬礼の規模を抑える。

青海省の漢民族の葬礼にかかる日数は平均で三日から五日で、三種類の宗教的職能者が葬礼にはどのように役割を分担しているのかを時間順に追跡してみる。

死亡直後　喪主から連絡を受けた陰陽先生が死者の生年月日と死亡時間に応じて葬礼の期間を占卜する。葬礼期間や遺体の埋葬時間などは陰陽先生の占いで決める。アカは喪主から連絡を受けた次第、死者の家に向かう（写真５）。アカは「ツァンパ」[10]で法像・宝具（写真６）を作り、チベット仏教の経典『亡人経』[11]を読経する。

死亡後の翌日　陰陽先生と礼儀先生が喪家の家に着き、東家がそれぞれに用意した部屋に自分の宗教の作法で喪家の設営と多くの儀礼を行う。喪主は礼儀先生に死を知らせるための「訃告」と葬礼招待状である「請帖」を書いてもらい、死者の親戚の家に連絡にいく。東家の男子四人が祖墳に墓穴を掘りに行く、その墓穴の方位は陰陽先生が「羅盤」で勘定して指示する。

【法壇】陰陽先生による喪家の設営は空間から見ると、内壇、中壇、外壇の三つの法壇と分けられる。

内壇は死者の遺体を安置した部屋の霊堂と陰陽先生が読経や法事を行う部屋の「経堂」である。陰陽先生の王明[12]は「内壇は城隍や土地爺など神様に文書を送り、死者に「滅罪消災」の法事を行う場所である」と述べている。霊堂と経堂の壁には陰陽先生が書いた「牒文」と「文書盒」などを吊って飾る（写真７と写真８）。経堂の窓側に「法事卓」を設置され、その上に「霊宝天尊」「元始天尊」「道徳天尊」など神像を配置する。さらに、蝋燭、香炉、経書、宝印、呪符、剣、弓、鼓、鈴、木魚など道具類を置く（写真９）。

中壇は喪家の庭に設置する。長い棒の先端に松枝を挿し、その下に「太乙天尊幡」と「王霊官」の神絵をかけて庭の中央に立てる（写真11）。庭の中央部にテーブルなどで高い台を作る。死者を埋葬前日の夕方に陰陽先生はこの台で「転経」という儀礼を行う（写真3）。さらに、部屋の壁の外側に「十王幡」という十殿閻羅の絵像が書いた幡を飾りつける。

外壇は家の入口にあり、家の大門など各所に「大紙」という鮮やかな紙を貼る。「大紙」には「天西闡教」、「資蒞冥府」「北極超昇」など空間や方位を示す文字が書かれる（写真10）。

【対聯と銘旌】礼儀先生は「挽聯」という対聯[13]を書き、喪家の大門など各所に貼る（写真10）。さらに、死者の所属情報と功績などを書いた「銘旌」を柱にかけて庭の中央に立てる（写真11）。事例10の「挽聯」と「銘旌」内容を例として挙げる。

〔挽聯①〕（上聯）欲聞教誨杳無音；（下聯）想見音容雪萬里；（横批）痛哉悲哉（生者と死者の死別に対する悲しみを表現）

〔挽聯②〕（上聯）英霊永垂宇宙間；（下聯）伝神常与天地存；（横批）魂帰心郷（死者の美徳を讃える）

〔挽聯③〕（上聯）寿近七旬昔日艱苦撫兒育女名著千秋；（下聯）樹高千尺根基深遠枝繁葉茂花開萬朶；（横批）寿終正寝（死者の功績を賛美している）

〔銘旌〕恭挽 中華人民共和国公民是故李母張守Ｙ太君寿近古稀相龍享年六旬晋七（右）撫儿育女勲德圓滿（中）賢妻良母懿德淑范（左）終前務農礼儀治家（中）跨鶴帰真之銘旌（死者の生前の肩書き、職業、功績、美徳などが書かれている）

【位牌と引魂幡】死者の生年月日、死亡年月日などを記して、遺体を安置した霊堂に置く位牌は礼儀先生が用意する。陰陽先生は死者の魂を導くと言われた引魂幡を用意する。

【請亡】葬礼参加者が喪服を着用した後、陰陽先生や礼儀先生などの指示により、行列を組んで村境まで死者と一族の祖先である霊魂を家に迎える儀礼を行なう。

図１にみるように請亡列の先頭には、喪主がおり請亡行列を指定する場所（祖墳の方向を向けの村境）へ引導する。その後に唢呐を演奏している唢呐匠、かご[14]を担いでいる東家の男性二人、冥弊・花輪などを持ち東家数人、頭に上まで一本の白布を挙げる死者の家族、党家の人々、娘など親戚の順につく。死者の長男は引魂幡を、次男が死者の位牌を置いてある御盆を持つ。その後は宗教者の陰陽先生と礼儀先生である。陰陽先生は鑵（ツア・chǎ）と鈸（バツ・bó）、木魚、鼓、鎮壇木と笏を持つ。最後は粥がある釜と礼儀先生が使う祭品を持つ党家が続く。

図1　請亡列

請亡の指定場所に着いたら、喪主と東家の人が麦藁に火をつけ、冥弊を燃やす。火の後方にテーブルを置き、その上に死者の位牌、礼儀先生が使う祭品、麺灯（小麦粉で作られた灯、灯油は油菜のキャノーラ油）、綿灯（乾燥した木の枝に棉を巻き、キャノーラ油で浸透したもの）などを置く。テーブルの右側は礼儀先生が「招魂文」を詠唱し、左側が礼儀先生に手伝いする東家が立つ。テーブルの後ろの方に死者の息子・孫などの後継者が一例に並び、長男が引魂幡持ち跪く。死者の後継者の後ろには、女性の家族と党家の人々が一列に並んで跪く。請亡行列の最後尾にはテーブルセットを置き、陰陽先生が読経する。

【招魂文と祭品】礼儀先生は村境の指定場所に祭品を供え、「招魂文」[15]を読み上げる。祭品（供え物）は、香（線香）、酒、紙帛（紙を巻いた帛の象徴するもの）、冥資（冥幣）、饃饃（饅頭）、塊肉、炙肝、果盒、水果、糖、茶、椒塩である。

【召摂科儀】村境の指定場所に到着後、陰陽先生は最後尾で「摂召科儀」という招魂の儀礼を行なう。先頭の礼儀先生の行事が終わるまで、陰陽先生がお経を唱える。陰陽先生が経典を唱えた後、黄色の紙に書いた「摂召牒文 / 文書」[16]という死者の魂を呼び戻す文章を読み上げる。

「摂召文書」の詠唱後は、陰陽先生は死者の長男から引魂幡を受け取る。陰陽先生は引魂幡を持ち振り「大聖救苦天尊、礼奉請亡○○（死者の名）之亡灵回府」という呪語を唱え、「召摂文書」文章を行列先頭の火で焼く。その後、陰陽先生が「請亡行列が家に戻る」と発令し、請亡列は喪主、唢呐匠、礼儀先生、白布を頭の上にあげる家族と党家の人々と婚出した娘、陰陽先生、死者のかごを持つ東家の順で喪家に戻る。行列の最後の東家は木の枝の十三本の灯に火をつけ喪家までの道両端に挿す。その人以外、別の二人が鍋のお粥を道に投げ捨てる。

行列が家に入ると、死者の遺影などを入れたかごを霊堂の前に置き、陰陽先生がお経を唱えながら、歯磨き、クシなどを持ち、死者の遺影に化粧の真似をする。陰陽先生の儀礼の後、東家の人がかごなどを下げ、死者の位牌を霊堂に置き、礼儀先生が死者後継者を呼び、供物を霊堂に供える。その後、礼儀先生の号令で家族と党家の人々が三回の跪礼をする。後には、家族と党家の人々は男女別（男左女右）で死者の遺体の両側に跪く。家族と党家の人々はこの時、泣き叫ぶ。

死亡後三日目　死者が死亡後の三日目は親戚や荘員は続々と弔問に来る。陰陽先生は経堂で読経する。礼儀先生は弔問客が持ってきた花輪に貼る挽聯を書く。弔問に来る死者の骨主の「験孝」[17]の儀礼が終了後、「大祭」、「転経」、「送盤纏」、「送亡」、「族譜・棺材への記名」、など宗教的職能者による儀礼を行う。

【大祭】骨主、喪主、死者の家族、党家（死者の夫の兄弟とその配偶者）、死者婚出した娘

と姪とその関係者などの人々が霊堂の前に跪く。礼儀先生は喪主からそれぞれの視点から死者を哀悼する文章の祭文を読み上げる。その後、死者の家族、党家の成員、娘、姪の順で一列に並んで厨房まで跪く。そして、厨房から宴の料理一品ずつ死者の霊堂に運び、息子の手で少しずつ空き皿に取り分ける。そのあと、礼儀先生の指示で喪主は大きな布で霊堂の前のドアを隠す。死者の魂が供えた料理を賞味する。礼儀先生の号令で技能的職能者の嗩吶匠（チャルメラ演奏者）が曲を演奏する。その後、料理を霊堂から厨房まで下げる。跪いている人々が手で少しずつ取り食べる。

【転経】陰陽先生が霊堂の前でお経を唱え、庭の真ん中に用意した中壇（高いてテーブル）に登って再びお経を唱える。その間に家族と血縁関係が近い党家の人々が一本ずつの線香を持ち、庭に隊列を組んで周回する。この際に陰陽先生が使う供物は「香料、花、饅頭、茶、布、果物、水、宝珠、蠟燭、米、金銭」と大きな容器に入れた花を刺している饅頭とナッツである。儀礼が終わる際、礼儀先生が饅頭とナッツなどを家族の人に投げ込める。

【送盤纏】死者があの世に使う「金銭」を婚出した娘と姪が紙で剪る。そして、準備した「金銭」をダンボールに入れ、紙で二つの鬼人形を剪る。この人形に対して陰陽先生が呪語を唱えたあと、死者の婿・姪婿がダンボールを持って家を回って走る。

【送亡】家に迎えた死者の霊魂を送る儀礼である。**唢吶**匠が先頭で、礼儀先生、陰陽先生、家族と党家の隊列順で家の外に出る。村界で火を三箇所で燃やし、「送盤纏」のダンボールを焼却する。その際は陰陽先生が読経し、礼儀先生は「送亡文」を詠唱する。

【族譜・棺材への記名】礼儀先生は死者を埋葬の前日に喪主の依頼で死者の名を族譜と棺材に記名する。

Ｂ－４　遺体の埋葬－陰陽先生の呪文と礼儀先生の祭文

祖先になれる死者の遺体は家族、党家、村人の男性で一族の祖墳まで運んで埋葬する。

埋葬当日の夜明け前、喪主の指示で家族と党家が遺体を霊堂から運び出して棺材の中に収め、長明灯を棺頭に置く。陰陽先生は起霊の呪文[18]を唱え、棺頭に包丁で三回叩後に大声で「起（qǐ）」と発令し、この号令で党家と村人が棺材を家から運び出す。

家族、党家、村人の男性が棺材を祖墳まで運び、礼儀先生は祖墳の神様「後土様」に祭文を読みあげる。喪主の指示で村人が棺材を墓穴に降ろし、その上に礼儀先生が書いた銘旌を被る。陰陽先生が引魂幡を持ちながら呪語を唱えたあと、三回の土を墓穴に入れる。その後、村人が速やかに棺材を埋葬する。墓穴の上に土饅頭を積む。

死者を埋葬したあと、全員が喪家に帰る。喪家に食事してから、喪主は宗教職能者に謝金を渡す。その後は葬礼に登場した宗教的職能者は解散する。

Ｂ－５　祭祀供養－陰陽先生による読経

家族は死者を埋葬後の三日目と死亡後の百日目に墓参りを行う。そして、死亡後の一周年に死者の墳前に墓碑を建てる。このとき、陰陽先生を招請して家に読経する。

以上、理想的な死を迎えた人（祖先になれる死者）の葬礼にみる、生前から進められる死の準備と、死後の葬礼と埋葬、そして祭祀に至るまでの流れについて、宗教的職能者の役割を中心に報告した。こうした理想的な死を迎えた死者の葬礼では、道教を象徴する陰陽先生、儒教を象徴する礼儀先生、チベット仏教の僧侶アカの三種類の宗教的職能者が関与する。この三種類の宗教的職能者は、それぞれの宗教の作法で喪家を設営し、諸儀礼の挙行により死者の魂をあの世に送る。

3.「不幸な死」の死者の葬礼と宗教的職能者

すべての死者が祖先になる条件を満たすわけではない。未成年、未婚の若い男女、そして交通事故など不慮の死および自殺・他殺などによる不自然死の死者への葬礼は、祖先になる死者への葬礼と大きく異なる。こうした「不幸な死」を迎えた死者の葬礼についてはすでに別稿にて報告したため[19]、ここでは宗教的職能者の関与を中心に簡潔に紹介するに留める。

【未成年の死者】前述した祖先になれる死者の葬礼とは異なり、未成年の死者に家族・党家・親戚・荘員・職能者といった五者全員は関与せず、家族と親しい党家と親戚などの限られた人々によって速やかに遺体が処理される。宗教的職能者は、主に陰陽先生が呼ばれるほか、アカが呼ばれる場合もある。多くの場合は一名の陰陽先生とアカが喪家で読経する。死者が悲惨な死を遂げた場合は宗教的職能者を多く招請する。

【未婚の死者】疾病や老衰といった自然死による成人未婚の死者については、老若男女で葬礼のあり方が異なる。自然死による成人未婚の死者に家族・党家・親戚・荘員・職能者といった五者全員が関与する葬礼を行うが、宗教的職能者の種類と人数は極めて控える。一般的には、陰陽先生とアカのいずれかの１～２人を招請して読経する。

【不自然死】交通事故、自殺、他殺などの死因に関わらず外因死による死者は、不幸な死を迎えたために不安定であり、生者や祖墳の風水に害を与えると考えられている。死者が老若男女のいずれの場合も、陰陽先生とアカが招請されて救済の法事を行う。また、他殺など悲惨な死を遂げる場合は、多めに陰陽先生とアカを招請して読経と法事を行う。

以上、「不幸な死」を迎えた死者の葬礼に宗教的職能者の関与を簡潔に説明した。宗教や俗信といったものに対して圧力がかけられた文革などの特別な時期を除き、基本的には

すべての死者のために陰陽先生とアカを招請して読経する。だだし、多くの「不幸な死」を迎えた死者の葬礼に礼儀先生は招請されない。しかし、祖先になれる資格を持つ、「不幸死」を迎えた死者には陰陽先生とアカのほかに礼儀先生が招請される。

4　宗教的職能者の役割分担

前述したように、青海省の漢民族の葬礼には複数の宗教の宗教的職能者が関与する。道教の陰陽先生、儒教の礼儀先生、チベット仏教のアカなど三系統の宗教者が葬礼には、各宗教の作法で儀礼を行なう。ここでは、三系統の宗教的職能者が葬礼での作業内容からそれぞれの役割を整理する。

(1) 関与の期間

三者について祖先になる死者の葬礼に関与する期間をみると、アカは死者の死亡直後のみ関与する。礼儀先生と陰陽先生は死者の死亡直前から関与し、礼儀先生は死者の埋葬後は一切関与しない。一方で、陰陽先生は埋葬後に行なわれる死者祭祀にも関与する。「不幸な死」による遺体を速やかに処理するので、陰陽先生とアカはこのような葬礼に関与する期間は、遺体を処理する当日のみになる。

(2) 作業の場所

祖先になる死者の葬礼において、喪家は三者にそれぞれの部屋を用意して作業を行う。アカは死者の遺体を安置する「霊堂」のとなりの部屋で読経する。陰陽先生は読経・法事を行う場所の「経堂」と「霊堂」を中心に喪家全体区間を内・中・外の法壇として設置する。こうした法事を行う領域を作ることで陰陽先生は「城隍」、「土地神」、「冥司」など死者の霊魂を管理する神明と死霊との交信ができ、死者の霊魂を他界に送る。

礼儀先生の作業場所は「経堂」と別所の部屋である。その部屋には葬礼に関する書類と道具類の用意を行う。そこの部屋に用意した文章を「霊堂」、「村落の境」、「祖墳」などの場所で読み上げる。

三者は各自の部屋で各の宗教の作法にしたがった儀礼を行う。その儀礼は他系統の宗教的職能者とはそれぞれ完全に独立して行なわれる。

(3) 儀礼の内容

三者が葬礼で行う儀礼の内容を見ると、アカと陰陽先生は、喪家に各自の法壇を設営し、チベット仏教と道教の経典を唱える。アカは「亡人経」という死者を済度する経典を唱え

る。陰陽先生が数多くの経典を唱えるが、紙幅の都合上で『指路経』という経典の部分的の内容を取り上げて分析を試みる。

「幽冥境界、却有三條路。一曰黄泉路；二曰無常路；三曰逍遙路」

アカと陰陽先生の唱える内容は、罪の清め、霊魂の行方先を示すなど死者霊魂への救いを祈願する。

一方、礼儀先生は儒教的な教えに基づいて、挽聯・銘旌・祭文などを用意する。その内容には、死者の功績、美徳などを褒め讃えて、子孫から死者の死に対する悲しみ、親孝行などを表現する言葉が多い。

以上のような三種類の宗教的職能者が葬礼での関与期間、作業場所、儀礼内容などを見てきた。そこから、アカと陰陽先生がお経を唱えて、陰陽先生が諸儀礼を行う目的は、神明と死霊との交信による慰霊と死者の霊魂を他界に送ることにあるとわかる。一方、礼儀先生は死者の生前功績に対する賛美、死者遺族の悲しみと孝行を表現することを目的とする。

三　死者と宗教的職能者の関係性

表2にみるように、宗教や俗信といったものに対して圧力がかけられた文革などの特別な時期を除き、基本的にはすべての死者のために宗教的職能者を招請して読経する。しかし、葬礼に招請する宗教的職能者の種類と人数は、死者の状況に応じて異なる。そこで、本章では葬礼に関与する宗教的職能者の種類や人数といった規模と死者との関係性を分析する。

（1）文革と宗教的職能者

青海省の農村部における漢民族の葬礼について、筆者は合計34事例を収集した（表2参照）。1980年代以前の事例１、事例２、事例３以外の31事例は少なくとも一人の宗教的職能者が登場する。それは文化大革命の時、葬礼に宗教的職能者を招請することが「封建迷信」と定義され、陰陽先生などの民間宗教者を批判闘争した。

この歴史について、陰陽先生を職業としている話者の王明（1967年）は「文革のとき、私はまだ幼いからできことがあまり覚えてない。しかし、その時いつも大勢の人が我が家に殺到し、祖父が隠した経書を探しているような記憶がある」と述べた。王明は1981年に中学を中退した後、家で農業をやりながら、祖父と父から陰陽先生の仕事をこっそり習得した。「当時、テレビなどはなく、陰陽先生の仕事が面白いから覚えた。陰陽先生が葬礼

へ本格的に参加するようになったのは1990年代前後である」という。

1980年代後半から陰陽先生などに対する批判闘争が緩和し、1990年代から陰陽先生は葬礼へと再び参加するようになった。しかし、話者の李爾偉は「父が1993年に死亡し、五人の陰陽先生を葬礼に招請した。弔問客の中に数人の警察官がおり、読経している陰陽先生らが弔問に来た警察官が自分たちを捕まえにきたと誤解して、葬礼から逃げようとした」と語った。

「陰陽先生は迷信分子である」と文化大革命の時に区分され、1980年代の後期からの政策の緩和に伴い、陰陽先生の活動が復活された。しかし、1990年代前半までは、陰陽先生が公的機関に対する恐怖を感じていたと話者の語りから確認できた。同じく葬礼に登場する礼儀先生の多くは、教師や書画家などの職業を持っており、文革では礼儀先生に対する批判闘争はなかった。

(2) 死者と宗教的職能者の招聘

青海省では、後継者の育成の義務と親世代の扶養の義務を果たしたうえで、子孫がたくさんいる人が高寿で自然な死を迎えることが尊ばれている。このような死者の葬礼は「喜喪」とも呼ばれ、その子孫達の経済状況に応じて極力華やかに葬礼が執り行われる。こうした死者の葬礼の宗教的職能者の使用状況を見ると三系統の宗教的職能者が全部登場する。筆者が調査した34の調査事例の中、三系統の宗教的職能者全てが登場する事例は事例30から事例34を除き、５事例のみである。この５事例の中でも宗教的職能者の人数がそれぞれ異なる。ここでは葬礼には宗教的職能者を招請する基準を分析する。事例30から事例34は一家殺害の被害者であり、合同の葬礼が執り行われた特殊な事例のため別に分析を試みる。

三系統の宗教的職能者が全部登場した事例には、①60歳を超えた自然死の死者、②死者は親世代がおらず子孫が多い、③経済力のある家という三つの共通点がある。

しかし、祖先になれる15事例では、事例7を除く葬礼にはいずれも陰陽先生と礼儀先生を招請した。経済力がある家ではアカも招請する。その人数をみると、祖先になれる死者の親世代が存命している場合、三系統の宗教的職能者すべてを招請できるが、人数を少なくしている。また、祖先になれる葬礼での宗教的職能者の参加の特徴は、①三系統の宗教的職能者が全員使用できる。②礼儀先生は必ず登場する。③宗教的職能者の人数は死者の親世代の存命状況で異なる、ということが挙げられる。

祖先になれない死者の葬礼をみると、他殺により合同の葬儀が行なわれた事例30から事例34以外には、礼儀先生は一切参加しない。陰陽先生は全ての事例に、またアカはいくつ

かの事例に参加した。事例30から事例34に礼儀先生が参加したのは、四名の死者のうち二人の年配者は異常死のため祖墳に埋葬できないものの、年齢や子孫状況といった点を鑑みて、葬礼に大勢の宗教的職能者を招請したものと考えられる。

青海省の漢民族の葬礼に参加する宗教的職能者についてあらためて整理すると、次のようになる。文革など特殊な時代を除き、基本的にはいずれの葬礼にも宗教的職能者を招請する。しかし、死者の条件によって宗教的職能者の種類と人数が異なる。そして、①陰陽先生を招請するのが基本である、②祖先になれる死者の葬礼には三系統の職能者を全て招聘できる、③死者の親世代と子孫状況によって宗教的職能者の人数が異なる、といった特徴がみられる。つまり、葬礼に招聘される宗教的職能者のあり方は、死者の死因、年齢、親世代の存命状況、後継者の経済力によって決定されるのである。

四　本稿の要点と今後の課題

葬礼は死の直前直後から遺体や霊魂を送るまでの一連の儀礼である。青海省の漢民族の葬礼では、死者の霊魂を処理し、あの世に送る役割は宗教的職能者が担う。こうした宗教的職能者は、喪家と長い付き合いを持つ関係ではなく、死者が死亡後から金銭が発生の雇用関係である。

本稿では、青海省の農村部の漢民族の葬礼における宗教的職能者の役割分担の分析を通して、青海省の漢民族の葬礼の特徴と宗教的職能者と葬礼の関係性についての分析を試みた。葬礼に重要な役割を果たした宗教的職能者の特徴として、次のような点が指摘できる。

（1）　青海省の葬礼には儒教、道教、仏教の宗教的職能者が関与する。遺体処理と霊魂送りを目的とする葬礼では、儒教の礼儀先生は祖先と子孫の立場から、死者生前の功績、美徳などを褒め讃えて、子孫から死者の死に対する悲しみ、親孝行など儒教的な美徳を表現する。こうして死者を社会的に位置付ける。アカと陰陽先生はそれぞれ、喪家に法壇を設営して宗教の経典を唱える。こうした読経と法事により、死者に死を自覚させ、霊魂をあの世に届ける。

（2）　三系統の宗教者の葬礼への参加は、死者の条件によって左右される。死者の死因、死因、年齢、親世代の存命状況、後継者の経済力が影響を及ぼす。祖先になる死者の葬礼には三系統の宗教的職能者全てを招請して儀礼を行うことができる。

（3）　宗教的職能者の葬礼への参加は、1980年以降の文革など特殊な時代に禁止され、現在も「殯葬改革」において禁止などが要請されている。しかし、具体的な葬礼の事例調査から、当地域では1990年代には宗教的職能者が再び葬列するようになってお

り、現在も葬礼に欠かせない役としてみなされていることがわかる。

注：

（1）「殯葬改革」は、中国中央政府が近代化を達成するために、1956年から全国に推進してきた葬儀に対する一連の改革である。具体的な内容は、葬礼から迷信を排除する、葬送儀式を簡素化する、葬法を土葬から火葬に移行する、共同の墓地を建設することである。葬送儀礼を衛生的、経済的、文明的に行うことを目指した

（2）拙稿「中国青海省の漢民族の葬礼にみる生前と死後の宗族－祖墳と族譜を中心に－」『伝承文化研究』第19号　二〇二二

（3）青海省の農村部における漢民族社会には、共通の祖先を持ち、父系出自の関係にある者たちを党家（dǎngjiā）と呼ぶ。党家は父系の系譜でつながる人々を集合的に呼ぶ言葉で、一族のことを意味している。一族に生まれて育った人、もしくはその一族の成員との婚姻により加わった人を党家の成員と見られる。しかし、生前は一族の成員として承認されても、後継者の有無と死因など条件で死者を区別する。詳細は注２の拙稿を参照。

（4）青海省では棺のことを棺材と呼ぶ。棺材は塗装された木製のものである。全体的に赤い漆で地色を塗り、その上に金色で龍と鳳凰の絵を描く。また、棺外の底の部位に縁起がいい模様を彫刻する。棺材の他、後継者の経済力によって金匣、槨という死者の遺体を納める葬具が存在する。金匣は死者の遺体を直接納める小さい内箱である。遺体のみを納めた金匣を棺材に納め、墓穴に下ろした後、槨という保護用具を上に被せる。金匣、棺材、槨の三つは事前に用意する。作成中から棺材と槨は一緒に置いてはいけないため、保管も別々にする。埋葬の際にはじめて一緒に用いる。

（5）拙稿「中国青海省の漢民族の葬礼と担い手」『東アジア文化研究』第6号　二〇二一

（6）2019年11月調査における話者、李爾偉（1939年生・男性）は、青海省湟中県李家山鎮河湾村の村民である。1994年までは教員として長年教壇に立ち、現地では知識人として多くの人々から尊敬されている。定年後は族譜の執筆と葬礼での礼儀先生として活躍している。

（7）青海省の漢民族の祖墳中央部に「供奉 本營皇天後土福徳尊神位」の石碑がある。この石碑を「後土神」と呼ぶ。「後土神」の石碑を中軸として年齢順で男性が左側、女性が右側に埋める。

（8）風水先生には、風水勘定のみを行う職能者、葬礼には法事や読経を行う陰陽先生、神霊の依代をして風水を勘定する職能者との三種類があるとされているが、ここでは紙幅の関係で割愛する。別稿にて詳細を報告したい。

（9）人が死に臨む際、あるいは死亡後、家族は同じ地域（村）から全く血縁・婚姻関係がない他人に喪主の仕事を任せる。喪主は死者の家族の依頼を受け、死者家族の意思を従って最高指揮者として葬礼を運営する。喪主の人数は事例によって異なる。特に、女性の死者に寿衣を着せた女性に

も女性喪主と尊称する。つまり、事例によって喪主は男性喪主と死者に着替えた女性喪主がある。男性喪主は葬礼では東家を管理、統率する上葬礼を進行させる。女性喪主は死者に寿衣を着替え、葬礼参加者が着用する孝（喪服）を縫う。男性喪主は大東に葬礼に必要な品物の購入、霊堂・喪家の設営など準備段階の仕事を指示する。また、弔問客の名前を確認し、死者との関係性を判断の上、孝（喪服）を配り、それぞれの弔問客が食事の時の席順なども案内する。その後、「験孝」の儀礼では家族の代わりに骨主の質問に答える。埋葬の時も、死者の遺体を棺材の中に納める。さらに、喪家に集合された男性荘員を指示した上、死者を埋葬する。

(10) ツァンパ:中国語は「**糌粑**/zānbā」であり、主にオオムギの変種であるハダカムギ（青稞/qīngkē ）の種子を脱穀し、乾煎りしてから粉にした食品である。チベット族の主食で、バターミルク茶、または、湯とバターを加えて練り、粘土状にしてから食べる。

(11) 『亡人経』はチベット仏教の経典である。アカはチベット語で詠唱しているので、詳細な内容は不明である。2021年7月3日に西寧市湟中区に位置するタル寺に調査を行ったとき、その寺の僧侶は「死者を済度するお経である」と説明している。

(12) 2022年1月調査における話者の王明は、青海省西寧市湟中区攔隆口鎮の南門村の村民である。家族で宗教的職能者の陰陽先生を職業としており、周辺地域の葬礼に参加することが多い。

(13) 対聯は対句を紙に書いたり、木の板に刻んだりするもので、門の両脇などに飾りつける。春節・慶弔時に一時的に貼るものと、恒常的に掲示するものがある。縦書きで門の両脇の柱に貼るものを楹聯と、横描きでドアの上部に貼るものを横批と呼ぶ。春節の春聯、結婚式の喜聯、長寿をお祝いの寿聯は赤い紙、葬式の挽聯は白紙を用いる。しかし、死者があった家の初めて春節は緑色の春聯を使う。春聯、喜聯、寿聯で全部祝福の言葉が書くが、挽聯は死者の評価や哀悼などの言葉を書く。

(14) かごは死者の魂を乗せて運ぶ乗り物である。請亡の直前に喪主と東家が手作りしたもので、洗面器の中に死者の位牌を挿している饅頭、死者の遺影、洗面用具（歯ブラシ・タオル・くし）を入れ、この洗面器と死者が生前に愛用した上着とを一緒に椅子に置き、紅布でカゴの形に作る

(15) 2019年10月16日に調査した事例11に使用した『招魂文』の内容を引用する。招魂文 / 維 / 公元2019年歳次己亥10月16日 / 孝男 / 李○○ / 謹記 / 香酒紙帛冥資庶羞塊肉果品之儀 / 招魂于父親老大人之灵位前 / 曰 / 月儿弯弯照天涯 / 青山緑水是汝家 / 有之一日阳寿尽 / 你想停留万不能 / 生离逝别遅早到 / 却是活人泪不干 / 不肖男 / 家门不幸 / 命运不順 / 父親身患悪疾医治无效 / 騎鯨帰真 / 与世長辞 / 欲報大德 / 昊天罔极 / 音容永絶 / 欲睹実難 / 昏梦不接 / 杳隔云山 / 至今而后 / 肝腸通断 / 嗚呼 / 哀哉 / 血泪不干 / 痛哉 / 吾父不幸灵亡 / 遺体停堂 / 魂游四方 / 挙目无親 / 到処乱撞 / 或高或低 / 不曉家郷 / 亡魂 / 帰来 / 帰来 / 孝男率孝眷 / 頭頂橋布 / 一字排行 / 沿巷途中 / 緩緩而行 / 花圏引路 / 喇叭斉鳴 / 茶湯飯食 / 酒在两旁 / 将冥資満満焚焼 / 香酒供品双手敬上 / 父魂 /

帰来 / 帰来 / 家設灵緯 / 子孫跪旁 / 家有酒宴 / 虔誠敬献 / 謹倶酒礼 / 鑑此寸丹 / 楽請父親大人 / 亡魂不知何処去 / 冥途風塵那里尋 / 天地遼闊 / 大地蒼茫 / 虔誠尋親 / 天蒼海渺茫 / 往而多難 / 帰来安詳 / 明灯指引 / 照耀輝煌 / 何苦迷离 / 飽尽風寒 / 父魂 / 帰来 / 帰来 / 今邀李氏塋中列祖列宗 / 先遠三代考妣宗親 / 再請父親大人之英魂 / 至家受祀 / 异郷域地不可久留 / 東西南北不可常往 / 挙目无親无人照顧 / 飢則无食 / 寒則无衣 / 天气寒冷 / 无処安身 / 東躱西藏 / 枉受孽障 / 魂兮 / 帰来 / 帰来 / 吾父聞儿輩之招請 / 直达高堂受家眷之奉祀 / 聊表哀腸 / 接親友之悼奠 / 惟福寿享 / 嗚呼 / 哀哉 / 伏惟尚 / 饗食

(16) 2019年10月16日に調査した事例11に使用した『摂召文書』の内容を引用する。霊宝大法司 / 令据 / 青海省西寧湟中県李家山鎮河湾村住居 / 奉 / 道資冥送終修斎荐摂報恩 / 孝男李○○ / 即一家孝眷人等 / 是日哀千 / 滋造下情 / 伏念亡過 / 李公諱爾均 / 形魂承仗經功早判生方為此仗 / 道於家志心啓建 / 元皇昇度報恩冥程経筵一供投誠 / 三界霊司里域追魂摂魄 / 神吏御承 / 太上符命即速追尋正薦亡過李爾均形魂 / 火急追取 / 令宵前来 / 元壇受度不得拘留 / 速領往生 / 乗此真符 / 超昇道境一如 / 誥命風火驛傳 / 天運乙亥年十月十六日告下 / 太上三五都功祭酒経符籙奉行摂召亡魂事 / 臣○○○（陰陽先生の名）承誥奉行 / 祖師南昌主練隨應妙行真人

(17) 験孝は骨主が死者の子孫に対して死者の生前への対応、死因、治療過程などを聞き、また死者の遺体を検分する。その後、死者の埋葬といった葬礼の規模について要求を喪主に伝える。この儀礼では、死者の子孫が親孝行であったかが判断される。骨主は、死者が女性の場合は者の実家の人が、男性の場合は死者の母の実家の人が務める。骨主は死者の責任者で、生前の死者が暴力などを受けていないか、死者の子孫が親孝行であったかを判断する役である。

(18) 陰陽先生が唱える起霊の呪文は次のような内容である。天圓地方 / 律令九章 / 頭頂八卦 / 脚踏魁罡 / 青龍宝刀 / 两手斎揚 / 金刀一挙 / 万鬼伏藏 / 门神護衛 / 閃在两旁 / 強神悪鬼 / 速去他方 / 金童玉女 / 送往西方 / 吉日吉時 / 起霊永昌 / 吾奉太上老君急急如律令

(19) 拙稿「中国青海省の漢民族の葬礼にみる生前と死後の宗族－祖墳と族譜を中心に－」『伝承文化研究』第19号　二〇二二

写真1　風水先生による死者墳地の勘定（事例11）

写真2　青海省湟中区李家山鎮Ｈ村・Ｌ氏一族の祖墳

写真3　陰陽先生による法事・読経（事例10）

写真4　礼儀先生先生による祭文の詠唱（事例10）

写真5　チベット仏教の僧侶アカ（事例15）

写真6　アカによるツァンパの法像･宝具（事例７）

写真7・8　陰陽先生が霊堂・経堂に吊る「牒文」と「文書盒」(事例10)

写真9　陰陽先生の経堂における「法事卓」(事例10)

写真10　陽先生と礼儀先生による大門の装飾－大紙と挽聯（事例13）

写真11　「太乙天尊幡」・「王霊官」と「銘旌」（事例10）